

令和7年度 学校評価報告書



浜松市立熊小学校

1 自己評価

自己評価結果、考察及び改善方策

別紙（学校評価アンケートの結果と考察）のとおり

2 学校関係者評価

1月27日（火）に開催した学校運営協議会において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告した。委員からは以下のような意見があった。

○学習、家庭学習について

- ・子供たちが積極的に発言できるよう、個人の能力を上げられたら良い。
- ・小中学生のうちの基礎力が大切。物事に対して疑問を持てる力、違う意見を出していける子になってほしい。
- ・子供が、やってみようかなということを見逃さないことが一番大切。
- ・漢字の書き取りをタブレットに直接指で書く形式でしていたが、“とめ、はね、はらい”や学力の低下が不安。
- ・発展的な学習は、どの程度タブレットを使ってできるのか。子供が家にいないと、どの程度学習しているかわからないので、委員としては評価しにくい。
- ・子供は、気になったことをその時々で自分で調べている。インターネットで調べたらすぐに答えが出るので、見て満足してしまう。
- ・タブレットで見た情報では、頭に残っていないと思うので工夫が必要。

○地域への情報発信について

- ・興味があれば見る。学校の存在が遠いところにあるのではないか。
- ・情報発信は、発信側と受け手側との問題がある。相手にされなくても情報発信を継続するしかない。委員が、各所で話題として出してあげると良い。
- ・学校行事の内容を地域にPRして、認知してもらったらどうか。また、字を大きくしたら良い。
- ・回覧する学校だよりの中で、部活などの諸問題や協議会での熟議内容などを地域への問いかけにして入れ、学校へ目を向けてもらったらどうか。
- ・子供が学校にいない人は学校に興味がないので、情報発信しても流されてしまう。学校が情報発信を一生懸命しても、受け手側の問題があると感じる。

○学校行事への参加について

- ・“子供たちと作り上げる学校行事”という点で、子供たちの柔軟な発想が盛り込まれるのを期待している。
- ・自分が思う昔のような学校とは違ってきた。教員と地域の関係が豊かになると良い。
- ・地域の産業と学校の行事の日にちが重なり、地域が参加しにくい。休みづらいのが現状。

○全般について

- ・事細かく、それぞれの児童や行事に対して考えてくれているので、良い学校だと思う。
- ・小規模校の良さを生かし柔軟に取り組んでいかなければならないが、教員が大変にならないと良い。地域でやれることがあれば協力していきたい。

○いじめ防止基本方針について

- ・「ありがとう」「ごめんなさい」がきちんと言える子であれば良い。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

○学習、家庭学習

- ・子供たちの主体的・協働的で深い学びのために授業改善に取り組む。
- ・56年では遠隔合同授業に取り組み、同学年の児童と意見を交わす協働的な学びの場を作る。
- ・日課に15分のモジュールを設定し、15、45、60分の授業時間を可能とする。それにより基礎力の定着と学びを深める時間の確保を図る。
- ・子供が主体的にすすめる家庭学習の在り方について検討を進める。

○行事

- ・地域の祭り、産業の繁忙期をふまえて年間計画を立てる。

○情報発信

- ・学校公開日を設定し、地域に開かれた学校をめざし、学校の教育活動を地域に公開する。
- ・学校だより、CSだよりを活用し、協議会の熟議内容を伝える。

○全般

- ・目指す子供の姿について、保護者、地域に伝えるとともに、さらに地域と連携を深めながら教育活動を進め、その現状や成果についてブログや学校だよりで配信していく。
- ・子供が作る学校行事に、地域の方への参加を呼びかけ、学校を身近に感じてもらう。
- ・日課を変更し、教員の働き方改革を進める。

○いじめ防止

- ・今後も、子供たちが温かい学校の雰囲気を作ることで、いじめを未然に防ぐ努力をし、何か起きた時に組織として迅速に対応できる体制を維持していく。

以上をふまえ、子供・保護者・地域・教職員がかかわり合い、一人一人の「ゆめ」が実現する学校、信頼のある学校をめざしていく。